



沼崎詔安議員

新年度予算

予算編成にのぞむ決意は

身の丈にあった規模で

質問 地方交付税や補助金が削減される中、新年度予算編成にのぞむ決意は。

また、平成十七年度が最終年度となる第七次総合発展計画事業を、どのように予算に反映させるのか。

沼崎町長 国は、十一月十八日に三位一体改革の方向性を示す「基本的枠組み」を決定したが、まだ、地方

交付税は不透明な状況であり、税源移譲も過大な期待が持てない。

新年度の予算編成にあたっては、

- ①財政をとりまく現状を認識し、「身の丈にあった規模」で財政運営をするため、予算総額を前年度以下とする。
- ②プライマリー・バランス

の均衡に努める。

③従来の枠配分方式を一層強化し、見込まれる財源不足額の圧縮を図る。

第七次総合発展計画については、最終年度であり、実施計画に掲げた施策事業を着実に推進することを基本方針とし、現下の厳しい財政状況に対応していく決意である。



平成17年度予算編成の各課ヒアリングの様子

総務行政

職員の意識向上をどう図るか

小グループの対話を検討

質問 マスコミに報道される汚職事件は、知事、市町村長、助役以下あらゆる階層で発生している。

役場職員の綱紀肅正と服務について、町長は自らどのように自戒しているか。

また、助役以下の職員にどのような指導をしているか。

沼崎町長 自戒の一例として、役場への出退勤の際は、公用車の利用をやめ自家用車を利用している。また、出退勤時間を職員の勤

務時間に合わせている。役場職員に求められるものは公務員としての自覚である。時代の厳しさを認識し、職員に範を示すべき立場を自覚し、職務の遂行に全力をあげる決意である。

職員への指導については、随時、庁議において指示を与え、年度始めや年末年始休暇の前などには直接メールにより指示を与えている。また、一般職員を対象に小グループ毎の対話を検討しており、その中でも私の思いは伝えるつもりである。

町の考えを聞く



12月14日から実施された一般職員を対象とした町長との対話の様子